

巻頭言

「新しい年を迎えて」

理事長 新谷 友良

明けましておめでとうございます。旧年中は皆様にいろいろお世話になりました。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年は申年、騒がしい事があるかなと思っていましたが、6月にイギリスが国民投票でEU脱退を決めました。そして11月にはよもやと思っていた共和党のトランプ候補がアメリカ大統領に当選しました。どちらも、そのような結果を少しは予想していましたが、本当にそうなるとは…といった印象です。国際的な出来事なので、新聞やテレビの報道の範囲で判断することになってしまいますが、何となく社会の中に不満のドグマが高まっており、それが粗削りな主張に共振して社会の方向を決めてしまっている印象を持ちます。

一方、日本の出来事に目を向けると、4月には熊本で大きな地震災害があり、亡くなられた方が50人もおられます。また、神奈川県知的障害者施設「津久井やまゆり園」では死者19名を含む殺傷事件が起こりました。さらに、身の回りでは障害者差別解消法が施行されました。

鳴り物入りで始まった障害者差別解消法ではその定着具合が大変気になります。例えば、雇用・労働関係の障害者差別に係わる職業安定所への相談件数があまり増えていないと報告されています。これが、職場での合理的配慮への取り組みが進んだ結果であれば歓迎すべき傾向と言えますが、とてもそうとは思われません。私たちの差別への気づきが遅れているのか、差別を言い出せない環境が続いているのか、それとも合理的配慮を求めても実現されず、泣き寝入りが続いているのか、実態はよく見えていません。

今年は酉年。昨年の「申」が「果実が成熟して固まって行く状態を表している」のに対して、「酉」は「果実が成熟の極限に達した状態を表している」とウィキペディアは書いています。果実であれば、小さな実がなり、だんだん大きくなり、そして熟して腐っていく流れが良く見えますが、社会の姿はそんなに簡単ではないようです。災害は毎年繰り返し発生し、人への差別も形を変えながら執拗に続いています。そのような中、「バリアフリー」とか「共生」とかいった言葉に絶え間ない水を与え、雑草を刈りこむ決意を今年も新たにしたいと思います。